

ニッセンケン分室「思いつきラボ」No. 121

織物を数える単位の“疋(ひき)” ってなにそれ・・・



先日 繊維業界のセミナーの後に筆者世代や若い世代も混ざって情報交換会のような雑談を交わしていた時の会話ですが よくある良い時代の回顧的自慢話になって・・・

ベテラン 「昔は業界が悪くなったと言いながらもひとつの品番で
3,000m ~ 5000m くらいの注文はたくさんあったよな～」

筆者 「そうだな～ 昭和 50 年代はまだ国産需要が多かったから
生産担当だったころは編機 30 台くらい管理してたものだった。
もっと回してた先輩もいたから当時は多いとは思ってなかったけど
月に 3000 反くらい編んでた頃もあったな～。」

ベテラン 「オレは薄地織物担当で輸出も多かったから 4000 疋くらいは
コンスタントに作ってたな。今思えばちょっとした自慢話になるね。」

若手 「すみません 4000 疋ってなんなのですか？」

ベテラン 「生地 の巻量が 50m なので疋って単位なんだ。
匹とも書く連中もいるけど・・・」



若手 「疋や匹なんて見たこともないですよ・・・反物のことですよ。」

筆者 「確かに合織織物担当でも“疋”を使うひとが少なくなった気がするね。
反物は普通だけど疋物（ひきもの）は聞くことがないな～
昔からだけど。巻物は反物と呼んでた。
ジョーゼットの反物 50 疋・・・みたいな感じ。」

若手 「なんか気になります。疋について教えてください。」

ベテラン 「オレは化合織の織物の業界しか知らないけど
疋しか使わないけどな・・・」

・・・という会話から今回の思いつきラボは“反”と“疋”のお話しになります。

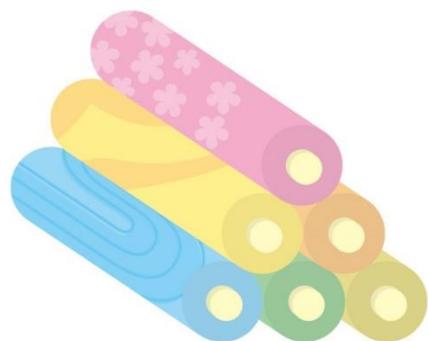
当時の教え

筆者たちが繊維業界に入った昭和 50 年（1975 年）の教えでは合織部隊は 1 反は 23m くらいのもので 1 疋は倍の 46m くらいなので 30m 巻は反の単位で 50m 巻のものは疋という単位を使うと習いました。一方 和装業界では着物用の反物は 1 反が 11m ~ 12m くらいのもので 1 疋は 2 反分の長さのもので疋物と呼ばれているということで 当時から同じ単位名で長さが全く違うものがあるという認識でした。しかもアバウト……。それが慣れてしまえばなんの疑問も持たずにいままで過ごしてしまっています。



日本の独自の単位なので……。もとは中国の単位かも知れませんが……。着物を造るのに必要な長さの巻物を反物と呼んでいたということで 子どもや背の高い人で長さが異なっていたので反物の長さもきっちりとは決められなかったのかもしれない。着物 1 着分が反物で着物と羽織のアンサンブルを誂（あつら）えるのには疋物が用意されたようです。当時は手染めになるので 1 反ごとの色合わせなど難しく色ぶれがあるのが当たり前のことだったと思います。例えば 正装用に黒色の着物と羽織を造るのに別々の反物から縫いあげると多少の色差が出てしまいます。同じ反物内で造ったほうが色ぶれが少ないことを考えると疋物が用意されたのが納得できる話です。

当時はニット部隊は 30m 巻が主流だったので“反”を使用していました。合織織物部隊は厚地も薄地も 50m 巻が多かったので“疋”を使っていました。ニットと織物の担当が全く別に分かれてたので使い分けもされていきました。最近では……。最近と言っても 20 年ほど前くらいですが織物もニットも同じ部隊で取り扱うようになって 使い分けが面倒となり“反”に落ち着いたという感じがしています。以前は“疋”という会話や書類で織物と判断できましたが“疋”も繊維業界の絶滅危惧種になっています。伝統のある織物屋さんや織物染色屋さんでは残してもらいたいと思います。筆者の年代としてはですが……。



反と疋

JIS 規格の用語でも定義がないのですが筆者愛用の「テキスタイル用語辞典/成田 典子著」によると

反（たん）……（織物・ニット）

生地をあらわす単位。品種により異なり一定しない。

着物地の場合 1 反は 1 着の着物を仕立てられる長さをいい約 11m 40cm ~ 12m。

羽織の場合の 1 反は約 8m 50cm ~ 9m 80cm となる。

服地の 1 反は丸棒などに巻いた一巻のものをいい、50m, 46m, 23 ~ 25m などがある。

疋（ひき）・・・（織物）

生地を長さであらわす単位。品種により異なり一定しない。

着物時の場合 1疋は 2反の長さをいい約 22m 80cm ~ 24m。

しかし、男物のアンサンブルでは「着物と羽織分」の長さしかない場合もあり、これも「疋」と呼ばれる。

服地の 1疋は化合繊の長繊維で使用され、50m または 50 ヤール（約 46m）とされ、2分の 1疋（23 ~ 25m）を 1反ということもある。

と説明されています。筆者は長繊維の合繊部隊だったので“疋”という単位を使ったということになります。綿部隊や羊毛部隊は織物でも“反”が主流だったようです。テーマで取り上げながらも筆者自身が勉強させられたコラム原稿になりました。繊維はやはり面白いです。

原稿担当：竹中 直（チヨク）

引用文献**『テキスタイル用語辞典』**

発売日：2012年2月25日

著者：成田典子

発行：テキスタイル・ツリー

編集・制作：Textile Tree 編集部

